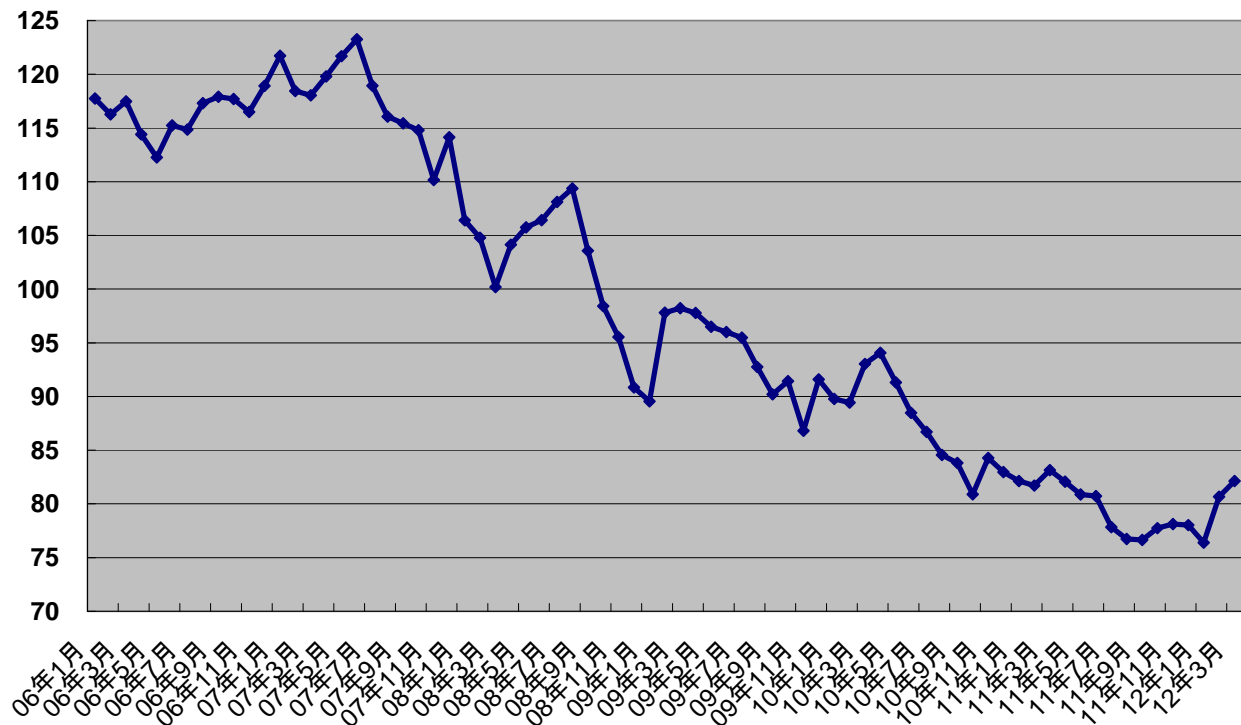


# 輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部  
購買推進課

## 外国為替（対米国ドル）の影響

外国為替 円/米国ドル （各月末営業日レート）



1月号でご案内の通り、10年産に引続き11年産の北米産乾牧草の産地価格は、アルファルファをはじめとしたいすれの草種も、同時期に穀物や燃料も高騰した08年産と変わらないか、それよりも高い水準で推移しています。豪州産オーツヘイについても11年産は未曾有の不作により、米国ドル基準で「史上最高値」だった10年産よりもさらに値上がりし、高騰しています。一方で、外国為替は円高（米国ドル安）水準となっており、1月末は76.4円/ドルで終了しましたが、2月中旬ごろから円安（米国ドル高）が進み、約7ヶ月ぶりに80円台に戻り、3月末は82.2円/ドルで終了しました。2月までは強い円高に支えられていたために、産地価格（ドル建て）は高く推移しているにもかかわらず、円貨にすると数年前とあまり変わらない水準で推移していましたが、ドル建てで高いがゆえに、6円/ドル近くも円安が進むと、円貨では大きな“値上げ”となります。3-4月以降に乾牧草を含む粗飼料の価格が日本各地で値上げとなっている一番の要因は、この為替によるものです。

今後もさらに円安に向かうことになれば、特にハイグレード品ほど非常に高いものとなり、08年産のように買えない価格帯となる危険が、一昨年から引続き輸入粗飼料には含まれています。輸出している産地だけではなく、輸入している日本側も、このことには十分に注意が必要です。

## 中東・中国需要動向

1月号でご案内の通り、09-10年からUAE（アラブ首長国連邦）向けと中国向けの米国産アルファルファが驚異的に数量を伸ばして輸出され始めました。

UAEのアルファルファ需要は年間100万トンとも言われており、以前の輸入元は主に欧州（スペイン、イタリアなど）でした。09年に入ってから、価格高騰により荷動きが悪くなり、大量に在庫された米国産の08年産アルファルファのサプライヤーと生産農家の在庫が輸出されたことを契機に、同国の輸入元の主力が米国に取って代わることとなり、以降毎年安定した数量のアルファルファが米国から輸出されています。豊富な資金力を背景に、一部サプライヤーへの投資の話も聞かれるようになりました。中国についても、以前は乳価に対して輸入乾牧草の価格が高かったため、あまり引合いがありませんでしたが、経済の発展にともない、また自国で08年に起きたメラミン混入事件の影響から、高品質の牛乳や乳製品の需要が増えており、飼養規模を拡大した大型酪農家向けに米国産アルファルファの引合いが増えています。すでに日本の4倍近くの生乳生産量であることも考慮すると、今後もますますアルファルファの引合いは増え続けると見込まれています。

11年産の米国産アルファルファが高騰しているため、両国とも供給開始当初は少し買い控えているという情報もありましたが、安定した引合い・船積みは続いており、12年産も積極的に買付けるだけのキャパは十分にあります。さらなる需要の拡大を睨んで、大手サプライヤー・生産農家の多くも、UAEと中国に対して近年積極的に取組む姿勢が顕著に見受けられます。12年産アルファルファは、海上運賃で有利なPSW産に特に需要が集中すると予想され、幾つかのサプライヤーもBIGベールを生産するプレスマシンを整えるなど、準備に余念がありません。

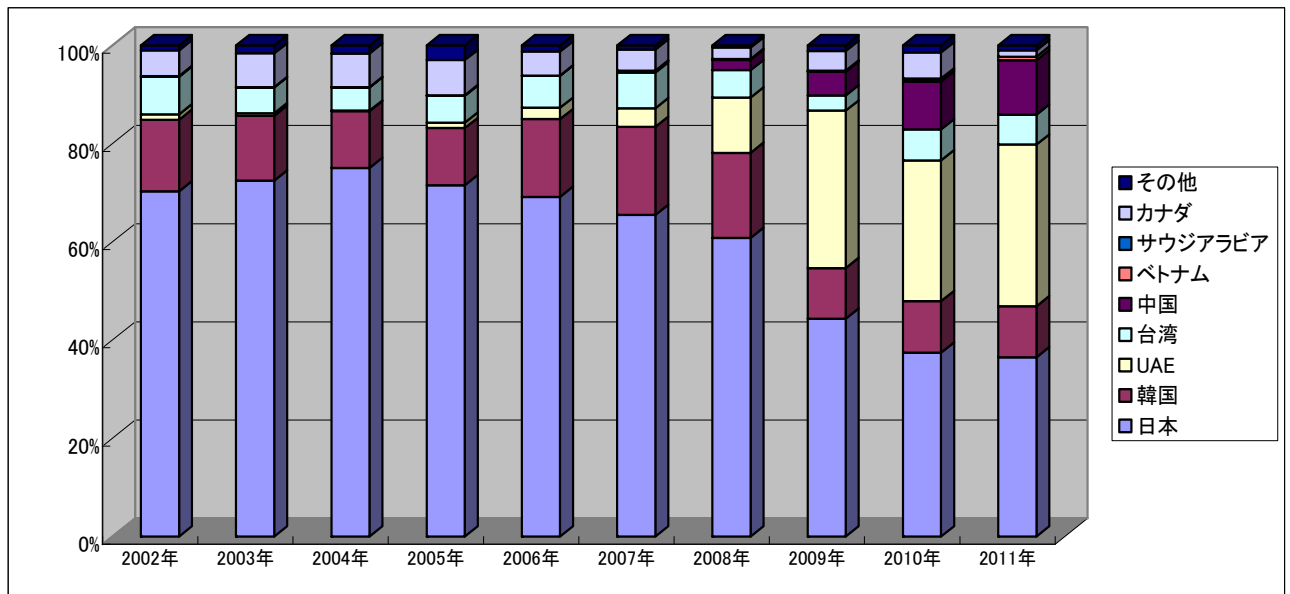
産地でのアルファルファを中心とした乾牧草市場は、日本側が想像している以上に大きく、劇的に変化していると言えます。昨年11年は、かろうじて日本が米国産アルファルファの輸出数量トップをキープしましたが、シェアは04年の半分以下にまでなっています。今後は輸出数量も、UAEや中国に間違いなく抜かれるであろうと見込まれています。様々な業界でも聞かれますが、この市場でも“Japan is No. 1.”から、“Japan was No. 1.”（日本はナンバーワン だった。）となりつつあります。今後の動向には引続き注意が必要です。

米国産アルファルファ年間輸出数量 (MT) 米国農務省 海外農務局 資料より

	2002年	シェア%	2003年	シェア%	2004年	シェア%	2005年	シェア%	2006年	シェア%
日本	631,068	70.3	673,196	72.5	706,809	75.0	614,367	71.5	559,523	69.2
韓国	130,651	14.6	122,964	13.2	108,751	11.5	100,161	11.7	127,832	15.8
UAE	10,014	1.1	4,552	0.5	988	0.1	9,299	1.1	18,621	2.3
台湾	68,812	7.7	48,781	5.3	44,830	4.8	47,308	5.5	52,633	6.5
中国	880	0.1	611	0.1	127	0.0	251	0.0	420	0.1
ベトナム			181	0.0	64	0.0	452	0.1	135	0.0
サウジアラビア	138	0.0								
カナダ	47,105	5.2	63,719	6.9	64,802	6.9	61,745	7.2	39,265	4.9
その他	9,204	1.0	15,124	1.6	15,436	1.6	25,637	3.0	10,338	1.3
合計	897,872		929,128		941,807		859,220		808,767	

	2007年	シェア%	2008年	シェア%	2009年	シェア%	2010年	シェア%	2011年	シェア%
日本	490,106	65.5	558,538	60.8	686,148	44.4	540,365	37.4	585,186	36.5
韓国	134,489	18.0	159,235	17.3	159,460	10.3	151,613	10.5	166,125	10.4
UAE	27,946	3.7	103,419	11.3	495,432	32.0	412,901	28.6	527,456	32.9
台湾	54,227	7.2	51,248	5.6	47,918	3.1	91,472	6.3	97,904	6.1
中国	2,321	0.3	19,348	2.1	74,985	4.8	140,362	9.7	177,374	11.1
ベトナム	1,117	0.1	1,248	0.1	1,817	0.1	5,738	0.4	10,982	0.7
サウジアラビア			130	0.0	1,329	0.1	3,324	0.2	111	0.0
カナダ	32,183	4.3	21,575	2.3	61,978	4.0	76,664	5.3	21,165	1.3
その他	6,116	0.8	4,142	0.5	17,820	1.2	20,596	1.4	16,098	1.0
合計	748,505		918,883		1,546,887		1,443,035		1,602,401	

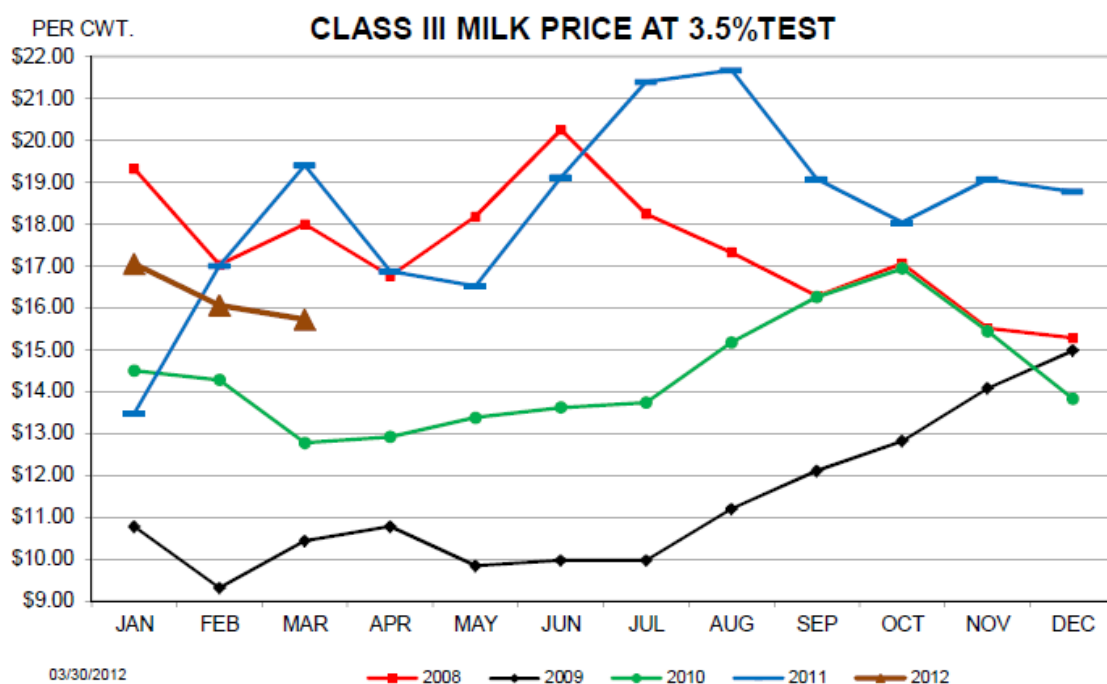
	2012年1月	シェア%
日本	46,284	32.5
韓国	14,445	10.1
UAE	41,030	28.8
台湾	5,991	4.2
中国	29,216	20.5
ベトナム	732	0.5
サウジアラビア		
カナダ	1,521	1.1
その他	3,321	2.3
合計	142,540	



## 米国の乳価動向

昨年6月から3ヶ月連続の値上げで推移してきた米国の乳価（下記グラフ参照：クラスⅢチーズ向け）は、9月に入り値下げに転じ、11月で少し回復したものの、米国内の景気に影響されて弱含みで推移し、12月以降はさらに値下げ傾向となっています。飼料コストも高いなか、米国内酪農家は再び厳しい経営を強いられています。

このように米国の乳価が弱含みで推移しているため、12年産アルファルファの需要が軟化すると産地では予想されています。輸出向けアルファルファはUAEや中国向けの需要が強い下支えとなっているため、すぐに“イコール価格も軟化する”、ということにはなり得ない市場に近年はなっていますが、11年産の価格高騰の一番の要因と言われている米国内向け需要が軟化すれば、輸出向けにとっては良い環境となりそうです。今後のアルファルファの作付け・作柄動向や、米国の酪農情勢・乳価動向について、引き続き注意が必要です。



## 北米コンテナ船情勢

WTSA（Westbound Transpacific Stabilization Agreement）加盟の船会社から、4月1日よりGR I（General Rate Increase：基礎レート）値上げ（PSWで\$50、PNWで\$100値上げ）実施の発表がされています。また、4-6月分のBAF（Bunker Adjustment Factor 燃料費調整係数：燃料価格変動に対して調整される割増運賃）を\$38値上げするとの発表もされています。海上運賃は各船社とも様子見で、昨秋から大きな値上げの動きはありませんでしたが、世界的な不況を背景にコンテナ

部門の採算悪化が続き、燃油価格も高値で推移していることから、中・長期的には強含みで推移することが予想されます。

秋以降に各船社で減船やサービスの改変があり、特にPNWでは現在も船腹スペースと空コンテナが不足しています。さらに中西部から穀類がコンテナで大量に主に東南アジア向けに出荷されており、西海岸まで空コンテナが回らないことが不足に拍車をかけている模様です。船積み遅延も引続き目立っており、すぐには解消されないことが懸念されています。

## ビートパルプ

### <米国産>

11年産ビート大根は、冷涼な気候が続いていたため、作付けの進捗が遅れました。作付け後も天候が優れなかったため、10年産よりも20日ほど遅れて収穫が開始されました。その結果、作付面積は前年比で5%近く増加したものの、ビートパルプの生産量は前年比で15%近くも減少すると見込まれています。生産量に相反して需要は国内向け、輸出向けともに引続き堅調なことから、11年産の産地価格は開始と同時に10年産よりも高値で推移しています。

産地では12年産ビート大根の作付けが、4月中旬から本格的に始まる予定です。作付面積は前年よりも微増と予想されており、現時点では前年のような天候・作柄ではなさそうなので、11年産よりもビートパルプの生産量が増えることが期待されるようです。

### <中国産>

11年産のビートパルプは、10年産よりも作柄が良好と伝えられています。以前は旧正月前に換金目的で安値玉も出回りましたが、サプライヤーの寡占化や国内市場の拡大が進み、近年では出回らなくなりました。国内向けの需要はさらに増えることが予想されているため、韓国と日本向けは10年産に引続き、かなり限定的となることが予想されています。

## アルファルファ

### <ワシントン産>

11年産の日本や米国内向けの荷動きが少し鈍化しているとも伝えられていますが、UAEや中国向けの荷動きは堅調で、引続き追加買付けの問合せもある模様です。

ワシントン州コロンビアベースンを中心に、昨秋はアルファルファ種子の引合いが強かったことと、トウモロコシや小麦などの穀類の相場価格が一時期よりも軟調に推移していることから、今後は他の作物からアルファルファへの転作が増えて、穀類へ

の転作が少ないことが一部では予想されています。一方で、米国の乳価が弱含みで推移していることを受けて、安定した収入が見込める穀類への転作が多いとも一部では予想されているため、12年産アルファルファの作付面積の増減については様々な予想がされています。

#### <オレゴン産>

産地での11年産の余剰在庫はほとんどない模様で、産地価格は引続き強含みで推移しています。12年産の作付面積については、11年産とほぼ変わらないと現時点では予想されています。生産効率を考えるとBIGバールでの収穫が12年産以降も増えることが予想され、今後も日本向けに好まれる3タイのプレミアム品は生産量が減少する傾向にあると予想されています。

#### <ネバタ産>

この地域でも11年産の余剰在庫はほとんどない模様です。米国内向けのみならず、UAEや中国向けに旺盛な引合いがあるため、産地ではBIGバールでの収穫が12年産以降も増えることが予想され、今後も日本向けに好まれる3タイのプレミアム品は生産量が減少する傾向にあると予想されています。

#### <カリフォルニア産>

インペリアルバレーでは、12年産の1番刈の収穫がほぼ終了し、早い圃場では2番刈の収穫が始まっています。1番刈は良品もあるようですが、雨当たり品や、水分が高いため輸出には不向きな仕上がりのもも多い模様です。米国内酪農家からの引合いが低調なため、産地価格は11年産スタート時よりも軟化傾向となっていますが、カリフォルニア中央部で1番刈の降雨被害があり、需要がインペリアルバレーに回帰する動きもあるため、価格軟化は足踏み状態となっている模様です。また、輸取向けの需要次第では、産地価格も大きく変化する懸念があります。既に中国向けに成約が始まっているようですが、UAEや中国向けが、いつごろから本格的な買付けが始まるか、産地でも動向が注目されています。

## **チモシー**

#### <米国産>

豪州産オーツハイや自給飼料の代替候補として日本向けに強い引合いがあるため、11年産はどのグレードもほぼ完売状態（成約済み）となっている模様です。

安定した需要から、12年産の作付面積は大きく変わらないと予想される一方で、堅調な需要に反して「これ以上の高値（＝儲け）は期待できない」と多くの生産農家

が考えており、作付面積は減少するとも予想されています。また、1 番刈を収穫した後、チモシーから穀類に転作しようと考えている生産農家も多い模様です。

### <カナダ産>

米国産と同様に、豪州産オーツヘイや自給飼料の代替候補として日本向けに強い引合いがあるため、1 1 年産はハイグレード品がほぼ完売状態（成約済み）となっています。これにより、ローグレード品の引合いも強くなってきている模様です。

安定した輸出向けと国内向け（主に馬向け）の需要から、1 2 年産の作付面積は増えると予想される一方で、ドライランド（中央アルバータ）では1 1 年産のローグレード品の未成約在庫もあることから、作付面積は減少するとも予想されています。

## スーダングラス

### <インペリアルバレー産>

1 1 年産のハイグレード品は荷動きも順調で、余剰在庫はほとんどない状況となっています。テキサス州やニューメキシコ州での旱魃による影響もあり、国内の肥育農家や酪農家からの引合いが強く、中間グレード・ローグレード品についても、余剰在庫はほとんどない模様です。豪州産オーツヘイや自給飼料の代替候補として日本向けに需要が増えたとしても、追加買付けは厳しい状況となっています。

産地では小麦の作付けが進んでおり、3 / 1 5 時点でのエーカーレージレポートによると、作付面積は前年対比1 2 0 %の8 8, 8 0 1 エーカーとなっています。昨年1 1 年産のピーク時の7 5, 0 0 6 エーカーを超えており、9 0, 0 0 0 エーカーに達すると、現時点では見込まれています。小麦の作付面積が増えるときはスーダングラスから小麦へ転作するケースが多いと考えられ、その場合は早播きスーダングラス（＝ハイグレード品）の供給数量が減少する傾向が例年みられます。

また、スーダン種子の現在の主産地はアリゾナ州ユマで、ここでは1 1 年産は小麦への転作が多かった模様です。インペリアルバレーでも生産されていますが、1 1 年産はローグレード品が予想以上に多く出荷されたため、スーダン種子の収穫からスーダングラスの生産に切り替えた農家も多かった模様です。したがって、スーダン種子の生産量が少なく、また繰越在庫も少ないため、種子価格が前年の2 倍以上にまで高騰しています。

種子価格の高騰を受けて、スーダングラスの生産意欲が減退すると予想される一方で、作付けは例年通り始まっており、1 1 年産の安定した需要をみて楽観的に考えている生産農家も多いことから、1 2 年産の作付面積はそれほど減らないだろうとも予想されています。各サプライヤーの作付面積の予想も5 0, 0 0 0 エーカーから6 0, 0 0 0 エーカーまで、現時点では幅広くなっていますが、早播きスーダングラスの動

向が分かる4/15時点のエーカーレッジレポートに注目が集まっています。

12年産スーダングラスについては、種子価格のほかに燃料と肥料の価格も上昇しているため、生産コストが上昇しています。繰越在庫もなく、早播きが多くないことも予想されています。豪州産オーツハイの状況からも考えて、12年産はスタートと同時にハイグレード品に非常に強い引合いが来ることが見込まれるため、産地価格がさらに高くなることが懸念されています。

## **クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）**

他の禾本科の乾牧草よりも比較的安い価格帯となっているクレイングラスへの引合いは依然として強く、11年産は完売状態（成約済み）となっている模様です。そのため、産地価格は強含みで推移しています。豪州産オーツハイや自給飼料の代替候補として日本向けに需要が増えたとしても、追加買付けは厳しい状況となっています。

安定した韓国と日本向けの需要から、12年産の作付面積は前年よりも増えて推移しています。インペリアルバレーの3/15時点でのエーカーレッジレポートによると、前年対比112%の14,109エーカーとなっています。生育は例年通りの進捗で、一番早い圃場では5月上旬に刈取りが始まると予想されています。11年産の繰越在庫もなく、生産コストも上昇している状況下で、韓国と日本向けに強い需要が12年産も続くと予想されるため、産地価格がさらに高くなることが懸念されています。

## **バミューダ**

バミューダハイは国内酪農家と馬向けで、またバミューダストローは国内酪農家向けに強い引合いがあるため、輸出向け供給量は減少し、産地での余剰在庫はほとんどない模様です。そのため、産地価格は強含みで推移しています。

12年産の作付面積は前年より減少して推移しています。インペリアルバレーの3/15時点でのエーカーレッジレポートによると、前年対比93%の48,999エーカーとなっています。11年産の繰越在庫もなく、生産コストも上昇している状況下で、強い需要が12年産も続くと予想されているため、今後も引続きタイトな状況が続くと予想されています。

また、産地ではバミューダ種子の価格が年々上昇しています。米国内の住宅需要（＝バミューダ種子の需要）が大きく回復したわけではなく、単収減や作付面積減の影響で生産量が少ないことが価格高騰の要因と考えられています。したがって、種採り用の圃場も増えて12年産はバミューダストローの生産量が増える可能性もありますが、それでも需要が供給を上回る可能性もあり、引続きタイトに進捗することが予想されています。



## ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

11年産フェスキューは、雨当たり被害が多く発生し、良品の余剰在庫がほとんどない状況となっています。フェスキューの状況を受けてライグラス（ペレニアル種）の引合いも増えたため、ライグラスも余剰在庫がほとんどない状況となっています。

年々減少しているフェスキュー・ライグラスの作付面積は、12年産も小麦への転作が多く、回復しないとの見方が強くなっています。また、金銭面での余裕が十分にあるためか、フェスキュー・ライグラスの種採り用の機械を買い替える生産農家も多い模様です。新しい機械は種を効率よく刈取り、茎（ストロー）はすぐに圃場に落とす「すきこむ」タイプで、すきこんだ茎はストローとしてベーリングされず、高騰する肥料代の代わりとなるようです。したがって、12年産以降も、ストロー類は生産量がさらに減少し、産地価格も弱含むことなく推移することが懸念され始めています。

## 豪州産オーツヘイ

### <西豪州>

昨年10月から12月にかけて断続的に強めの雨が続いたため、雨当たり被害が大量に発生し、深刻な事態となりました。雨当たりを免れたノーレイン品はごくわずかな数量となっています。11年産は雨当たりのローグレード品が大量に発生する結果となりましたが、韓国向けに少しずつ船積みが増えてきている模様です。

### <南豪州>

南豪州でも昨年10月から12月にかけて降雨が続いたため、雨当たり被害が多く発生しました。西豪州ほど酷くはない作柄・状況ですが、雨当たりを免れたノーレイン品は少なく、ハイグレード品については限定的な数量となっています。南豪州でも、雨当たりのローグレード品が韓国向けに少しずつ船積みが増えてきている模様です。

11年産は、日本向けの船積みも西豪州から南豪州に多くシフトすると見込まれていますが、アデレード港（南豪州）出しの船積みスペースのタイト感は顕著で、恒常化しているのが現状です。不安定なデリバリーには注意が必要です。

### <東豪州（ヴィクトリア州）>

ヴィクトリア州でも昨年10月から12月にかけて降雨が続いたため、雨当たり被害が多く発生しました。南豪州よりも作柄・状況は悪くありませんが、ハイグレード品については限定的な数量となっています。この地域は豪州国内で最大の酪農・肥育の生産州で、ローグレード品を中心に国内向けの引合いも強くなっている模様です。

以 上